

16.12.2004

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 2 月 1 2 日
Date of Application:

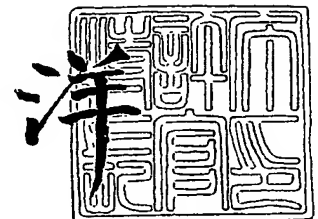
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 0 3 4 6 6 6
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 4 - 0 3 4 6 6 6]

出 願 人 松下電器産業株式会社
Applicant(s):

2 0 0 5 年 1 月 2 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願
【整理番号】 2016150345
【提出日】 平成16年 2月12日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 E03D 9/08
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 中村 一繁
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 白井 滋
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 梅景 康裕
【発明者】
 【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内
 【氏名】 古林 満之
【特許出願人】
 【識別番号】 000005821
 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100097445
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 岩橋 文雄
【選任した代理人】
 【識別番号】 100103355
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 坂口 智康
【選任した代理人】
 【識別番号】 100109667
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 内藤 浩樹
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 011305
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 9809938

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

発熱体の外周に設けた流路と、前記流路を構成するケースと、前記流路に流向を旋回方向に変換する螺旋状のガイドを備えた熱交換器。

【請求項 2】

螺旋状のガイドは、ピッチを不均一とした請求項 1 に記載の熱交換器。

【請求項 3】

螺旋状のガイドは、発熱体の表面温度が所定温度以上になる領域でピッチを狭くする請求項 2 に記載の熱交換器。

【請求項 4】

螺旋状のガイドは、流路の下流側でピッチを狭くする請求項 2 または 3 に記載の熱交換器。

【請求項 5】

螺旋状のガイドは、流路の下流側に向かって連続的にピッチを狭くする請求項 2 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の熱交換器。

【請求項 6】

螺旋状のガイドは、流路の下流側に向かって断続的にピッチを狭くする請求項 2 ～ 4 のいずれか 1 項に記載の熱交換器。

【請求項 7】

請求項 1 から 6 記載の熱交換器を備えた衛生洗浄装置。

【書類名】明細書

【発明の名称】熱交換器とそれを備えた衛生洗浄装置

【技術分野】

【0001】

本発明は、冷水を温水に加熱するヒータを備えた熱交換器と、それを用いて人体の局部を洗浄する衛生洗浄装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、この種の熱交換器は、図11に示すように、円筒状の基材パイプ1と外筒2からなる二重管構造をしている。そして、基材パイプ1の外周の一部にはヒータ部3が設けられている。また、基材パイプ1の内孔4には、らせん中子5が挿入されている（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

上記構成において、流体としての水は、基材パイプ1の内孔4を流れるものであり、その際、水は基材パイプ1の内孔4に挿入されたらせん中子5のねじ山6に沿って流れるものであり、ヒータ部からの熱と熱交換されて温水が吐出されるものである。

【特許文献1】特開2001-279786号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、前記従来の構成では、基材パイプの外にヒータ部を設けているために、ヒータ部を熱絶縁して囲うための外筒が必要となり大きな構成となっていた。また、ヒータ部の熱が外部へ逃げるため熱交換効率が悪いという課題があった。さらに、内孔にらせん中子を挿入して保持するためには、ヒータ部がある基材パイプ内面に接触する必要がある、らせん中子は熱的に強固な材質にしなければならないという制限があった。

【0005】

本発明は、小型で熱交換効率のよい熱交換器とそれを用いた衛生洗浄装置において、螺旋状のガイドを設けることで発熱部のスケール付着を低減することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記従来の課題を解決するために、本発明の熱交換器とそれを用いた衛生洗浄装置は、発熱体の外周に設けた流路と、前記流路を構成するケースと、前記流路に流向を旋回方向に変換する螺旋状のガイドを備えたものである。

【0007】

これによって、発熱体の外周に流路を設けることで熱絶縁が流路によって行われるので、熱的な絶縁層を設ける必要がなく小型にすることができる。そして、発熱部を流路で囲うことで外部へ熱を逃がさない構成とすることができ、熱交換効率を高めることができる。

【0008】

また、流路に設けた螺旋状のガイドは、温度の低いケース内壁などで保持することができるので樹脂などの耐熱性が弱い材質でも使用することができるので加工性に優れ、軽量とすることができる。

【0009】

そして、螺旋状のガイドによって、流路内を流れる水の向きを旋回方向に変えることで、見かけ上の流路断面積が減少することから、同じ流量の水を流路に流した場合、流速を速めることができる。流速が速くなると、水と発熱体の境界層が狭くなることで、発熱体表面温度の上昇を防ぐことができるので、発熱部表面に発生するスケールなどの付着を低減することができる。また、流速が速いので、スケールを堆積させずに、熱交換器外へ流水と一緒に排出させることができる。

【0010】

さらに、流路内を流れる水の向きをスムーズにかつ旋回方向に導くため、圧力損出が少ない熱交換器を実現できる。

【発明の効果】

【0011】

本発明の熱交換器とそれを備えた衛生洗浄装置は、発熱体の外周に設けた流路に螺旋状のガイドを設置することで、流路内を流れる水の流速を速め、発熱部表面や流路内に発生するスケールなどの付着を減少することができ、小型で高効率を実現しかつ長寿命とすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0012】

第1の発明は、発熱体の外周に設けた流路と、前記流路を構成するケースと、前記流路に流向を旋回方向に変換する螺旋状のガイドを備えた構成とすることにより、見かけ上の流路断面積が減少することで、流路内を流れる水の流速を速め、発熱部表面や流路内に発生するスケールなどの付着物を減少することができ、小型で高効率を実現しかつ長寿命とすることができる。さらに、螺旋状のガイドにより、流路内を流れる水の向きをスムーズかつ旋回方向に導くため、圧力損出が少ない熱交換器を実現できる。

【0013】

第2の発明は、特に、第1の発明の、螺旋状のガイドのピッチを不均一とした構成とすることにより、部分的にピッチを広くすることで、流路の圧力損失を低減することができる。

【0014】

第3の発明は、特に、第2の発明の、螺旋状のガイドの、発熱体の表面温度が所定温度以上になる領域でピッチを狭くする構成とすることにより、発熱体の温度が高くなる領域の流速を速めることができるので、効果的に発熱体の温度が過剰に上昇することを防ぐことができ、スケール付着量を低減することができる。

【0015】

第4の発明は、特に、第2または3の発明の、螺旋状のガイドの、流路の下流側でピッチを狭くする構成とすることにより、比較的スケール付着が発生しやすい下流側におけるスケールの付着を軽減することができるとともに、全域の流路を狭くするよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。

【0016】

第5の発明は、特に、第2から4の発明の、螺旋状のガイドの流路の下流側に向かって連続的にピッチを狭くする構成とすることにより、スケール付着が発生しやすい下流に行くにしたがって連続的に流速が速くなり、効果的にスケールの付着を軽減することができるとともに、全域の流路を狭くするよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。

【0017】

第6の発明は、特に、第2から4の発明の、螺旋状のガイドの流路の下流側に向かって断続的にピッチを狭くする構成とすることにより、スケール付着が発生しやすい下流に行くにしたがって断続的に流速が速くなり、効果的にスケールの付着を軽減することができるとともに、全域の流路を狭くするよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。

【0018】

第7の発明は、特に、第1から第6の発明の熱交換器を備えた衛生洗浄装置は、熱交換器を小型化することで衛生洗浄装置本体の小型化が実現でき、狭いトイレ空間にも容易に設置することができるとともに、スケールの付着を早期に防止することで、衛生洗浄装置の洗浄ノズルにスケール破片が詰まることを防止でき、長寿命で、かつ動作不良の発生しにくい装置とすることができる。

【0019】

以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら説明する。なお、本実施の形態によって本発明が限定されるものではない。

【0020】

(実施の形態 1)

図 1 は、本発明の第 1 の実施の形態における熱交換器の断面図を示すものである。

【0021】

図 1 において、熱交換器は、流体としての水を加熱する発熱体としてのシーズヒータ 7 と、シーズヒータ 7 の外周を囲って流路 8 を構成するケース 9 と、流路 8 内の水の流れを旋回方向へと誘うための螺旋状のガイドである螺旋バネ 10 で構成されている。そして、流入口 11 と、流出口 12 と、シーズヒータの電極端子 13、14 と、流路をシールするための O リング 15 を備えている。また、図中 16 の矢印は水の流れを示す。

【0022】

以上のように構成された熱交換器について、以下その動作、作用を説明する。

【0023】

まず、発熱体であるシーズヒータ 7 は、図 2 に示すように、酸化マグネシウム（図示せず）が封入された銅パイプ 17 の中に電熱線 18 がコイル状に配設されているものである。そして、その電熱線 18 と接続された電極端子 13、14 に電気を通電することで電熱線 18 が加熱され、酸化マグネシウムを介して銅パイプ 17 に熱が伝わることで、銅パイプ 17 の外周を流れる水が加熱されて温水となり、熱交換されるものである。

【0024】

この際、水は、図 3 に示すように、ケース 9 の中心から偏芯した側面位置に設けた流入口 11 から入水し、銅パイプ 17 の外周に流れ込み、さらに、銅パイプ 17 の外周に沿って螺旋状に配置した螺旋バネ 10 によって、銅パイプ 17 の外周を矢印 16 のように旋回して流れ、再びケース 9 の中心から偏芯した側面位置に設けた吐出口 12 より吐出されることになる。

【0025】

ここで、螺旋状に配置する螺旋バネ 10 は、見かけ上の流路断面積である螺旋バネ 10 のピッチ間およびシーズヒータ 7 とケース 9 との間隙で構成される流路断面積が、ケース 9 と銅パイプ 17 の間に構成されたドーナツ状の流路の断面積より狭くなるような方向およびピッチで旋回させるようにした。この結果、螺旋バネ 10 に沿って螺旋状に流れる旋回流 16 の流速が、螺旋バネ 10 がいない場合に比べて速くなる。例えば、シーズヒータ 7 の外径が $\phi 6.5 \text{ mm}$ 、ケース 9 の内径が $\phi 9 \text{ mm}$ 、バネ 10 のピッチが 6 mm の場合、螺旋バネ 10 がいない場合の流路断面積が約 30 mm^2 であるのに対して、螺旋バネ 10 を用いた場合の見かけ上の流路断面積は約 7.5 mm^2 となるため、同じ流量を流した場合、流速を約 4 倍とすることができる。また、水の流れ 16 を旋回状にすることで、流路断面積を小さくしても比較的圧力損失が増えることがない。さらに、流入口 11 と流出口 12 をケース 9 の中心から偏芯した側面位置に設けたことおよび螺旋状のガイドとしたことで、流路 8 内の水の流れ 16 をスムーズに旋回方向へ誘うことができるため、圧力損失を低減することができる。

【0026】

また、流体が流れる距離が長くなると、徐々に整流効果が働き、旋回力が弱まってシーズヒータ 7 に沿った流れとなる。その場合、流路断面積が広くなるため、流速が低下する。しかし、本発明では、螺旋バネ 10 により流出口 12 まで旋回流が持続する構成とすることで、速い流速を持続可能であるので、流路 8 内の銅パイプ 17 と流体である水の境界層の領域が全域に渡り非常に狭くなる。その様子を示す流速分布図を、図 4 と図 5 に模式的に示す。図 4 に示すように、流速が遅い場合、境界層 19 が広がるが、流速が速く水の流れが乱流になると、図 5 に示す流速分布の境界層 20 のように狭くなるため、銅パイプ 17 の表面温度が過剰に上昇することがない。一般的に、スケール成分は温度が高いほど析出量が増えるため、本実施例のように流路 8 内を流れる水の流速を早め、銅パイプ 17 と水との境界層の領域を狭くすることで、銅パイプ 17 の表面温度の上昇を抑えることが可能となり、結果として銅パイプ 17 に付着するスケール量を減少することができる。なお、本実施例では、スケール量低減効果を高めるために、螺旋状のガイドである螺旋バネ 10 によって乱流となるまで流速を高める構成としたが、層流のままであっても、螺旋

状のガイドである螺旋バネ 10 によって流速を早めることで、銅パイプ 17 と水の境界層の領域を狭くすることができるため、スケール低減効果を得ることができる。

【0027】

さらに、スケールが銅パイプ 17 に析出した場合でも、流路 8 内を流れる水の流速が速いため、析出したスケールを下流側に流す効果があるとともに、スケールが小さく砕かれて下流側に流れていくので、下流側に詰まることがない。そして、熱交換器内にスケールが付着しにくくなることによって、熱交換器としての寿命を延ばすことができる。また、螺旋状のスムーズな流れとすることで、速い流速でありながら、流路 8 の圧損を少なく実現できるとともに、銅パイプ 17 と水との境界層を狭くすることで熱交換効率を向上することができ、小型化を実現することができる。

【0028】

このように、発熱体であるシーズヒータ 7 の外周に設けたケース 9 によって流路 8 を構成し、その流路 8 に螺旋状のガイドである螺旋バネ 10 を備えた構成とすることにより、流路 8 内を流れる水の流速を速めることができ、銅パイプ 17 の表面に発生するスケールなどの付着物を剥離あるいは粉碎することができる。また、流速を早め、銅パイプ 17 と水との境界面が狭くなることで、小型で高効率を実現し、かつスケール付着を低減して長寿命とすることができる。また、流速を速くすることで、気泡の発生を低減し、スケールの発生を抑制すると共に、銅パイプ 17 表面の温度を低く抑えることができるので、沸騰音の発生を低減することができる。そして、発熱体であるシーズヒータ 7 の外周に流路 8 を設けることで熱絶縁が流路 8 によって行われるので、熱的な絶縁層を設ける必要がなく小型にすることができる。また、発熱部を流路 8 で囲うことで外部へ熱を逃がさない構成とすることができ、熱交換効率を高めることができる。

【0029】

また、螺旋状のガイドである螺旋バネ 10 を、発熱体であるシーズヒータ 7 やケース 9 とは別部材を用いた構成にすることによって、螺旋バネ 10 は、シーズヒータ 7 あるいはケース 9 に完全固定せずに、螺旋バネ 10 の一部が摺動自由の状態で保持されることによって、流れから受ける流力とバネ力などによって振動するため、スケールを剥離する効果を得ることができる。

【0030】

さらに、水道水のスケール成分の少ない地域や、水道水圧の低い地域で使用する場合は、低圧損となるように、別部材の螺旋バネ 10 を取り外して、螺旋バネ 10 を圧力損失が小さくなるように形状を変更したり、取り付け場所を流速の遅くなる場所に取り付けたことで、低圧損かつ流速を速めることでスケールの付着を防止することができる。また、異常時の交換も容易となるので、メンテナンス性を向上させることができる。

【0031】

また、螺旋バネ 10 は、発熱体であるシーズヒータ 7 との間に間隙を設けた構成とすることにより、螺旋バネ 10 はシーズヒータ 7 に直接接触しないので、熱が螺旋バネ 10 に伝熱されにくくなり、螺旋バネ 10 の熱損傷を防げ、長寿命とすることができる。さらに、熱が螺旋バネ 10 に伝熱されにくくなるので、樹脂などの耐熱性が弱い材質でも使用することができる。よって、螺旋バネ 10 は加工性のしやすい材料で製造することができ、軽量とすることができる。なお、螺旋バネ 10 は、全ての範囲においてシーズヒータ 7 との間に間隙を設ける必要はなく、例えば、螺旋バネ 10 とシーズヒータ 7 とが一部で接していても何ら問題はない。ただし、その場合は、螺旋バネ 10 を非金属とするか、シーズヒータ 7 のシースの材質と同じ金属とすることが、腐食を防ぐために望ましい。

【0032】

また、螺旋バネ 10 は、ケース 9 内壁との間に間隙を設けた構成とすることにより、螺旋バネ 10 を介してシーズヒータ 7 からの熱がケース 9 へ伝熱されにくくなるので、ケース 9 の熱損傷が発生しにくくなり、長寿命とすることができる。さらに、水は遠心力によって、ケース 9 内壁に沿って流れようとするため、剥離したスケールはケース 9 内壁に沿って流れ、螺旋バネ 10 に引っかかり再び銅パイプ 17 表面に堆積するのを防止でき、長

寿命とすることができる。なお、螺旋バネ 10 は、全ての範囲においてケース 9 内壁との間に間隙を設ける必要はなく、例えば、螺旋バネ 10 とケース 9 内壁とが一部で接していても何ら問題はない。

【0033】

さらに、螺旋バネ 10 は、シーズヒータ 7 およびケース 9 内壁の両方と間隙を有する構成とすることにより、組み立て性を向上させることができる。

【0034】

なお、シーズヒータ 7 のシースの材質を銅パイプで説明したが、SUSパイプなど他の金属パイプでも同様の効果がある。そして、螺旋状のガイドとして螺旋バネで説明したが、金属の螺旋バネやバネ性を持たない螺旋線や樹脂性の同等形状のものでも同様である。さらに、衛生洗浄装置に用いる場合は、流量が 100 から 2000 mL/分程度であるため、銅パイプ 17 は外径が、 $\phi 3$ から 20 mm 程度で、螺旋のピッチは 3 から 20 mm 程度がよい。ケース 9 の内径は、 $\phi 5$ から 30 mm の範囲で、流速を速めた構成とすることができる。また、螺旋状のガイドに螺旋バネを用いる場合は、螺旋バネの線径が、0.1 から 3 mm 程度のものがよく加工性にも優れている。なお、本実施例では、螺旋状のガイドとして螺旋バネ 10 を用いているが、ケース 9 やシーズヒータ 7 と一体とする構成としても良い。また、螺旋バネ 10 を流路の一部に設け、圧力損失をさらに減らす構成としても良い。

【0035】

また、本実施例では螺旋状のガイドとして螺旋バネ 10 で説明したが、バネ以外の流れを螺旋状に変換させる翼やガイドのようなものでもスケールの付着低減効果は得られる。

【0036】

(実施の形態 2)

図 6 は本発明の第 2 の実施の形態の熱交換器の断面図である。第 1 の実施の形態に示した図 1 と異なる点は、螺旋状のガイドである螺旋バネ 21 を銅パイプ 17 の表面温度が所定温度以上になる領域で螺旋バネ 21 のピッチを狭く、それ以外の領域で螺旋バネ 21 のピッチを広くした点である。その他は図 1 に示した実施の形態 1 と同様であり、同一番号を伏して詳細な説明を省略する。

【0037】

以上のように構成された熱交換器について、以下その動作、作用を説明する。

【0038】

シーズヒータ 7 は、図 2 に示すようにコイル状の電熱線 18 が加熱されることで水を加熱しているが、電熱線 18 同士での熱干渉などによって中央部が最も温度が上昇する性質を持っている。また、水が熱交換されることによって下流側ほど水の温度が高く、かつ水と共に銅パイプ 17 の表面温度も上昇していく。これらのことから、図 6 に示す領域 A の部分、すなわち、シーズヒータ 7 の中央よりやや下流側を中心とする領域で銅パイプ 17 の表面温度が他の部分よりも上昇し、その結果領域 A でのスケール付着量が増加することになる。

【0039】

そこで、本実施例では、銅パイプ 17 の表面温度が所定温度以上となる領域 A で螺旋バネ 21 のピッチを狭く、それ以外の領域で螺旋バネ 21 のピッチを広くした。このことにより、領域 A での見かけ上、水の流れ 16 の流路断面積 8a が減ることから、領域 A での水の流速を速めることができるので、銅パイプ 17 の表面温度の上昇を防ぎ、スケール付着量を低減させることができる。なお、所定温度は 60℃、より好ましくは 45℃とすることが望ましい。これは、スケールを含んだ水の温度が約 60℃を超えるとスケール付着量が急激に増加していく傾向があるためである。

【0040】

つまり、銅パイプ 17 の表面温度が所定温度以上になる領域で螺旋バネ 21 のピッチが狭くなるように構成したことにより、比較的スケール付着が発生しやすい高温部におけるスケールの付着を軽減できるとともに、全域で螺旋バネ 21 のピッチを狭くす

るよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。

【0041】

なお、本実施例では、例えば銅パイプ17の表面温度が60℃未満の領域では螺旋バネ21のピッチを10mmに、60℃以上の領域ではピッチを6mmとするなど、ピッチを一段階のみ変更しているが、例えば、銅パイプ17の表面温度が45℃未満の領域では螺旋バネ21のピッチを10mmに、45℃以上60℃未満の領域ではピッチを8mmに、60℃以上の領域ではピッチを6mmにするなど、ピッチを多段階変更させる構成としても良い。

【0042】

また、本実施例では、螺旋状のガイドとして螺旋バネ21を用いているが、ケース9やシーズヒータ7と一体とする構成としても良い。

【0043】

(実施の形態3)

図7は本発明の第3の実施の形態の熱交換器の断面図である。第1の実施の形態に示した図1と異なる点は、下流側で螺旋バネ31のピッチHbを狭く、上流側で螺旋バネ31のピッチHaを広くした点である。その他は図1に示した実施の形態1と同様であり、同一番号を伏して詳細な説明を省略する。

【0044】

以上のように構成された熱交換器について、以下その動作、作用を説明する。

【0045】

図7のような熱交換器では、水が熱交換されることによって下流側ほど水の温度が高く、かつ水と共に銅パイプの表面温度も高温になるので、スケールの発生も多くなる。しかし、下流側の螺旋バネ31のピッチを狭くしているため、見かけ上の流路断面積は下流側の8cで上流側の8bよりも狭くなり、水の流れ16流速を速めることができるので、比較的スケール付着が発生しやすい下流側におけるスケールの付着を軽減することができるとともに、上流側では螺旋バネ31のピッチを広くしているため、螺旋バネ31全域のピッチを狭くするよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。

【0046】

また、図8は螺旋バネ41のピッチを流路の上流側から下流側になるにしたがって、次第に狭くなるように構成したものである。したがって、スケール付着が発生しやすい下流に行くにしたがって連続的に流速が速くなり、効果的にスケールの付着を軽減することができるとともに、螺旋バネ41全域のピッチを狭くするよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。また、螺旋バネ41のピッチを連続的に狭くしているため、上流から下流に向けてスムーズに流速を速めることができる。

【0047】

さらに、図9は螺旋バネ51のピッチを流路の上流側から下流側に向かって断続的に狭くなる構成にしたものである。したがって、スケール付着が発生しやすい下流に行くにしたがって断続的に流速が速くなり、効果的にスケールの付着を軽減することができるとともに、全域の流路を狭くするよりも流路の圧力損失を少なくすることができる。また、連続的に螺旋バネのピッチを狭める場合と比較し、製造が容易になる。なお、本実施例では、1つの螺旋バネのピッチを変化させる構成としたが、ピッチの異なる複数のバネを用いる構成としても良い。

【0048】

また、本実施例では、螺旋状のガイドとして螺旋バネ31、41、51を用いているが、ケース9やシーズヒータ7と一体とする構成としても良い。

【0049】

(実施の形態4)

図10は本発明の第4実施の形態の衛生洗浄装置を示す断面図である。そして、実施の形態1から3のいずれかの熱交換器を用いた衛生洗浄装置の構成であり、便器61の上に暖房便座62と衛生洗浄装置本体63を設置している。そして、衛生洗浄装置本体63の

中に、熱交換器 64 を備え、熱交換された温水が洗浄ノズル 65 から噴出して人体 66 の局部を洗浄するものである。そして、衛生洗浄装置本体の中には主用部品として遮断弁 67 と流量制御装置 68 を備えている。その他、制御基板などの部品は、省略する。

【0050】

このような衛生洗浄装置において、小型でスケールの付着の少ない熱交換器 64 を衛生洗浄装置本体 63 に内蔵することで、本体の小型化を実現すると共に、熱交換器の長寿命化とともに衛生洗浄装置としての寿命も伸ばすことができ、熱交換器 64 はもとより洗浄ノズル 65 などが詰まることがなく動作の安定した衛生洗浄装置とすることができる。

【0051】

特に、円筒状の小型熱交換器とすることで、伸縮する洗浄ノズル 65 の設置によって死空間となっていた洗浄ノズル 65 の下部に、熱交換器 64 を設置することができ、本体全体の小型化に貢献できる。

【0052】

また、スケールが付着しにくい熱交換器ということで、スケールの流出も抑制されているので、洗浄ノズル 65 や流量制御装置 68 などスケールが詰まることがなく、安定した動作で長期間使用できる効果がある。

【産業上の利用可能性】

【0053】

以上のように、本発明にかかる熱交換器とそれを用いた衛生洗浄装置は、発熱体の外周に設けた流路に流向を旋回方向に変換する螺旋状のガイドを備えることで、見かけ上の流路断面積を狭くすることが可能となり、流路を流れる水の流速を速めることで、発熱体と水との境界層を狭くし、発熱体の表面温度を下げるができるため、スケールなどの付着量を低減することができる。これによって、小型で高効率を実現しかつ長寿命な熱交換器を得ることができる。そして、それを用いた衛生洗浄装置は、熱交換器を小型化することで衛生洗浄装置本体の小型化が実現でき、狭いトイレ空間にも容易に設置することができるとともに、長寿命で、かつ動作不良の発生しにくい装置とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【0054】

【図 1】 本発明の実施形態 1 における熱交換器の断面図

【図 2】 同熱交換器の断面図

【図 3】 同熱交換器の横断面図

【図 4】 熱交換器内の流れ分布図

【図 5】 熱交換器内の流れ分布図

【図 6】 本発明の実施の形態 2 における熱交換器の断面図

【図 7】 本発明の実施の形態 3 における熱交換器の断面図

【図 8】 同熱交換器の他の実施例を示す熱交換器の断面図

【図 9】 同熱交換器の他の実施例を示す熱交換器の断面図

【図 10】 本発明の実施の形態 4 における衛生洗浄装置の断面図

【図 11】 従来の衛生洗浄装置の断面図

【符号の説明】

【0055】

7 シーズヒータ（発熱体）

8 流路

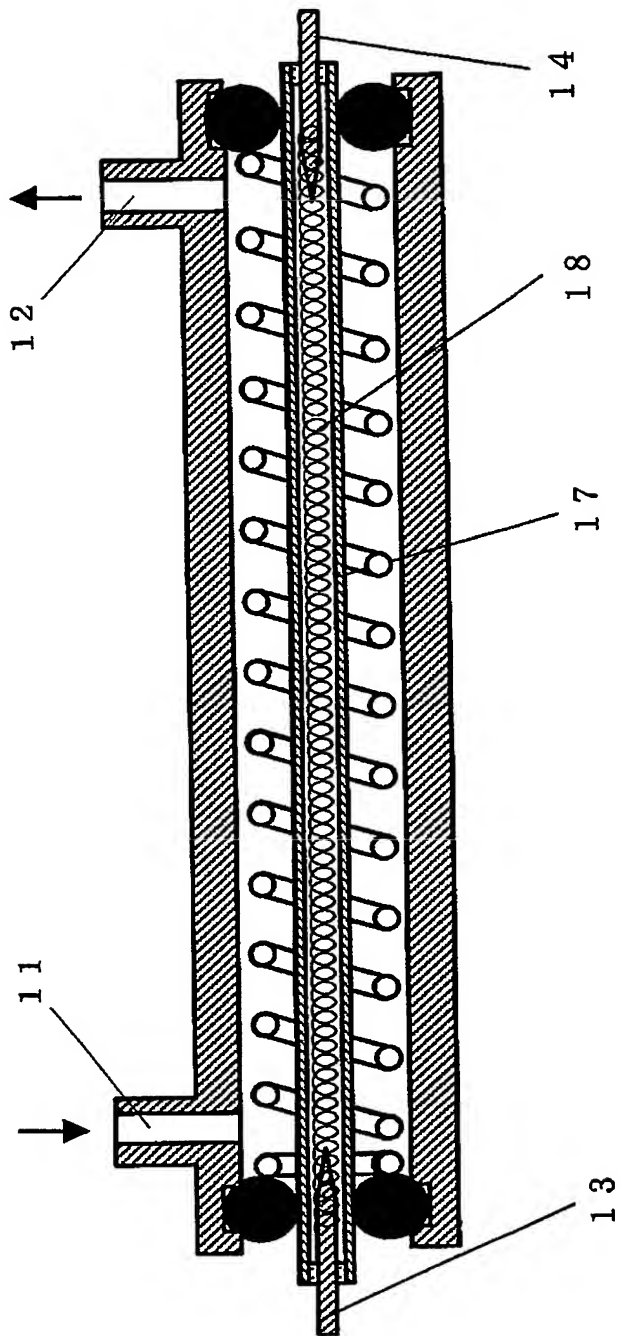
9 ケース

10 螺旋バネ（螺旋状のガイド）

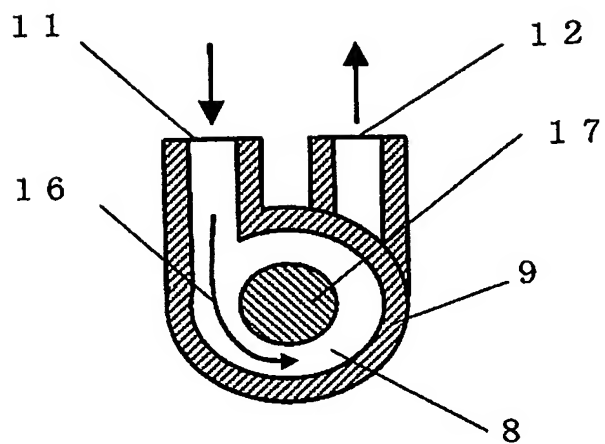
63 衛生洗浄装置

64 熱交換器

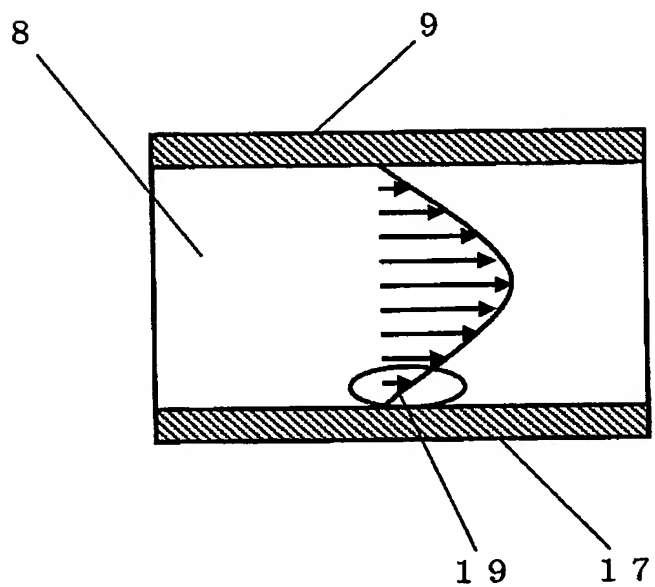
【図 2】



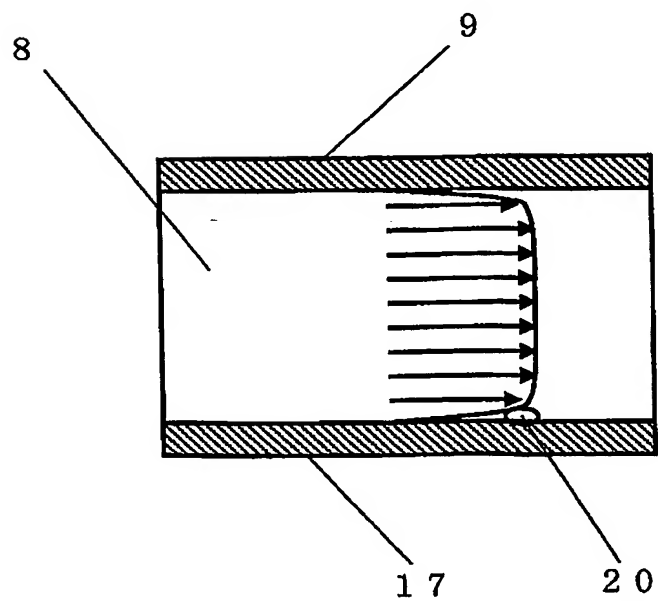
【図 3】



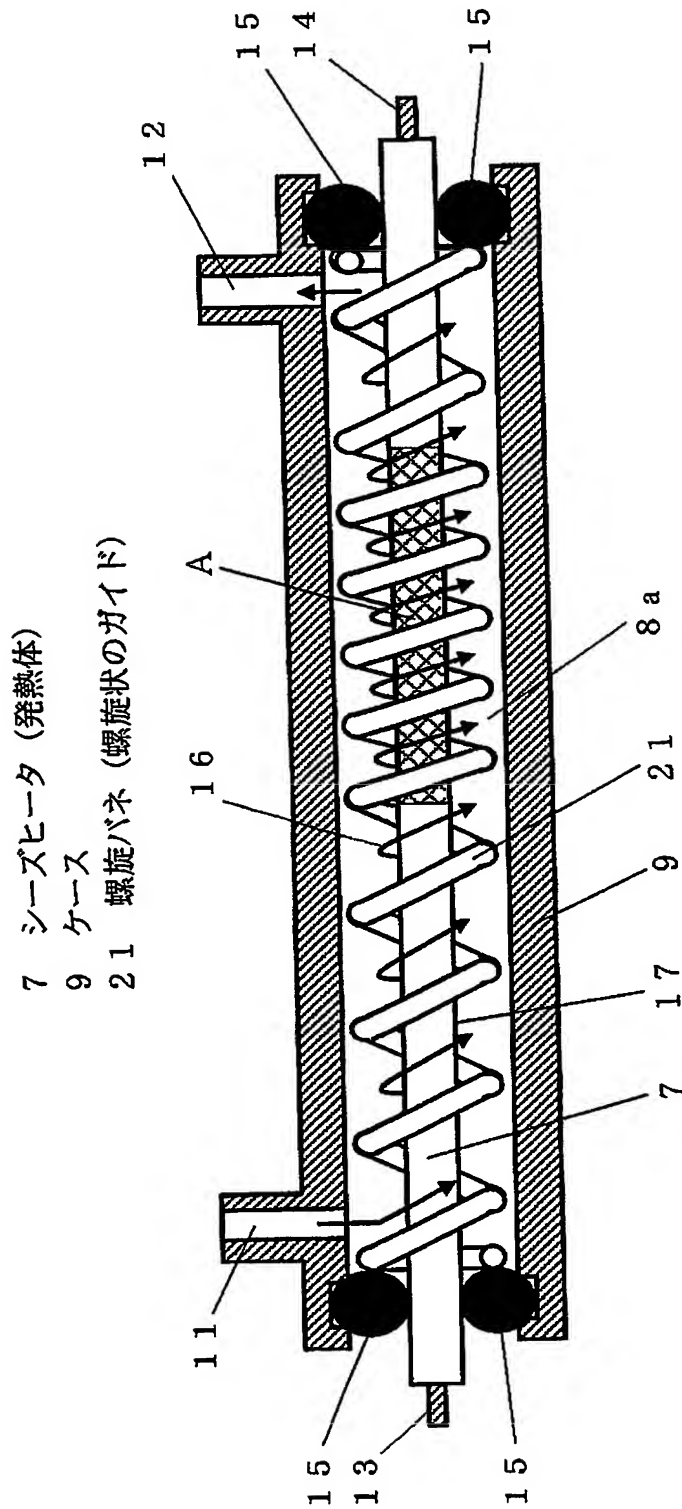
【図 4】



【図 5】

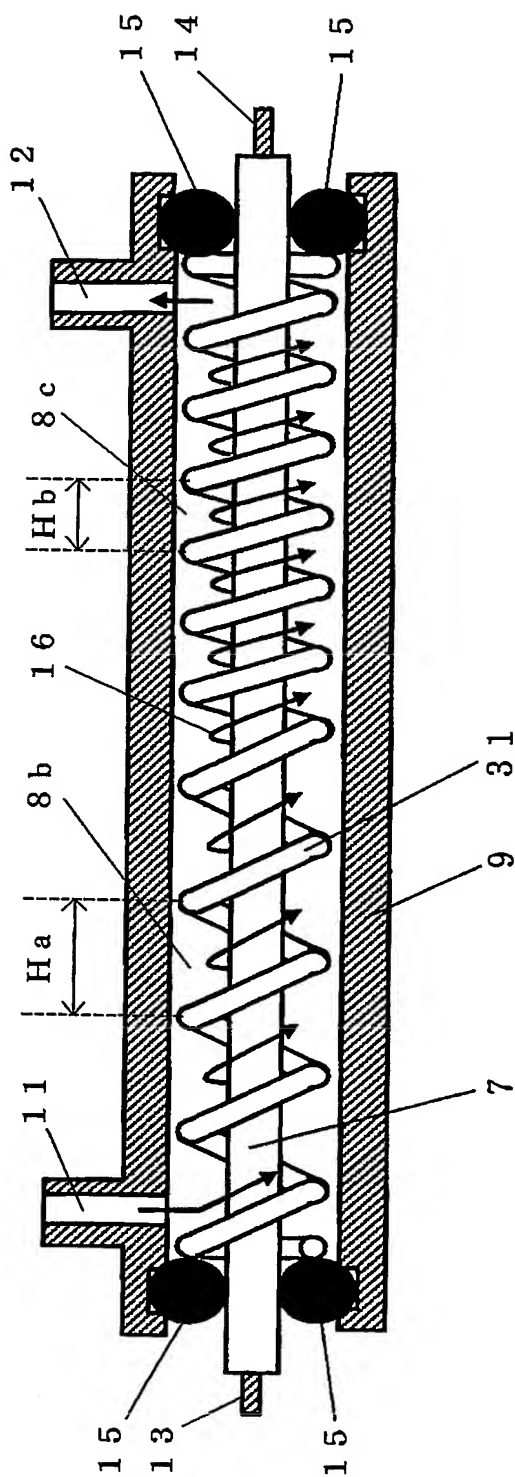


【図 6】



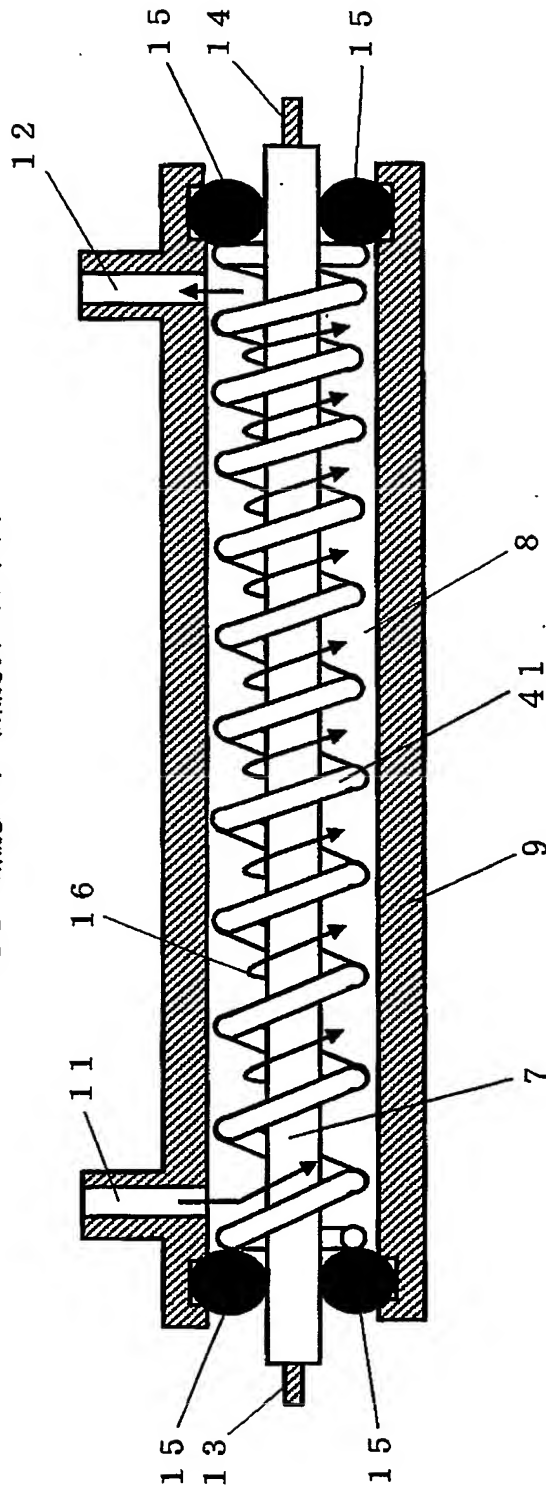
【図7】

- 7 シーズヒータ (発熱体)
- 9 ケース
- 31 螺旋バネ (螺旋状のガイド)



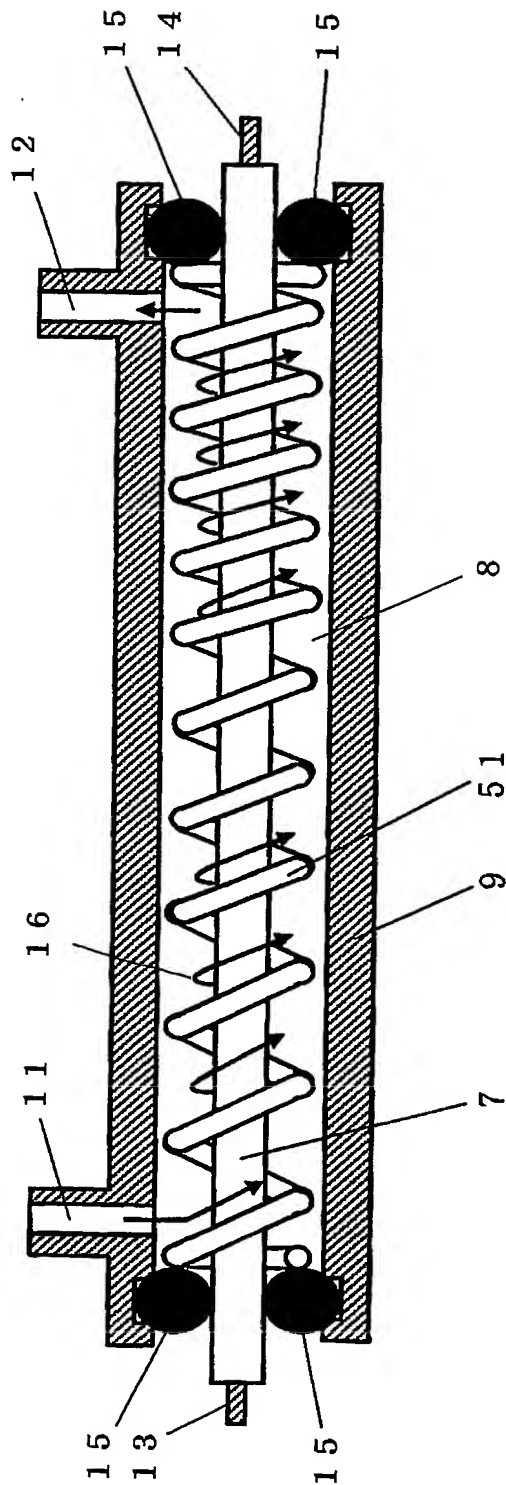
【図8】

- 7 シーズヒータ (発熱体)
- 9 ケース
- 41 螺旋バネ (螺旋状のガイド)



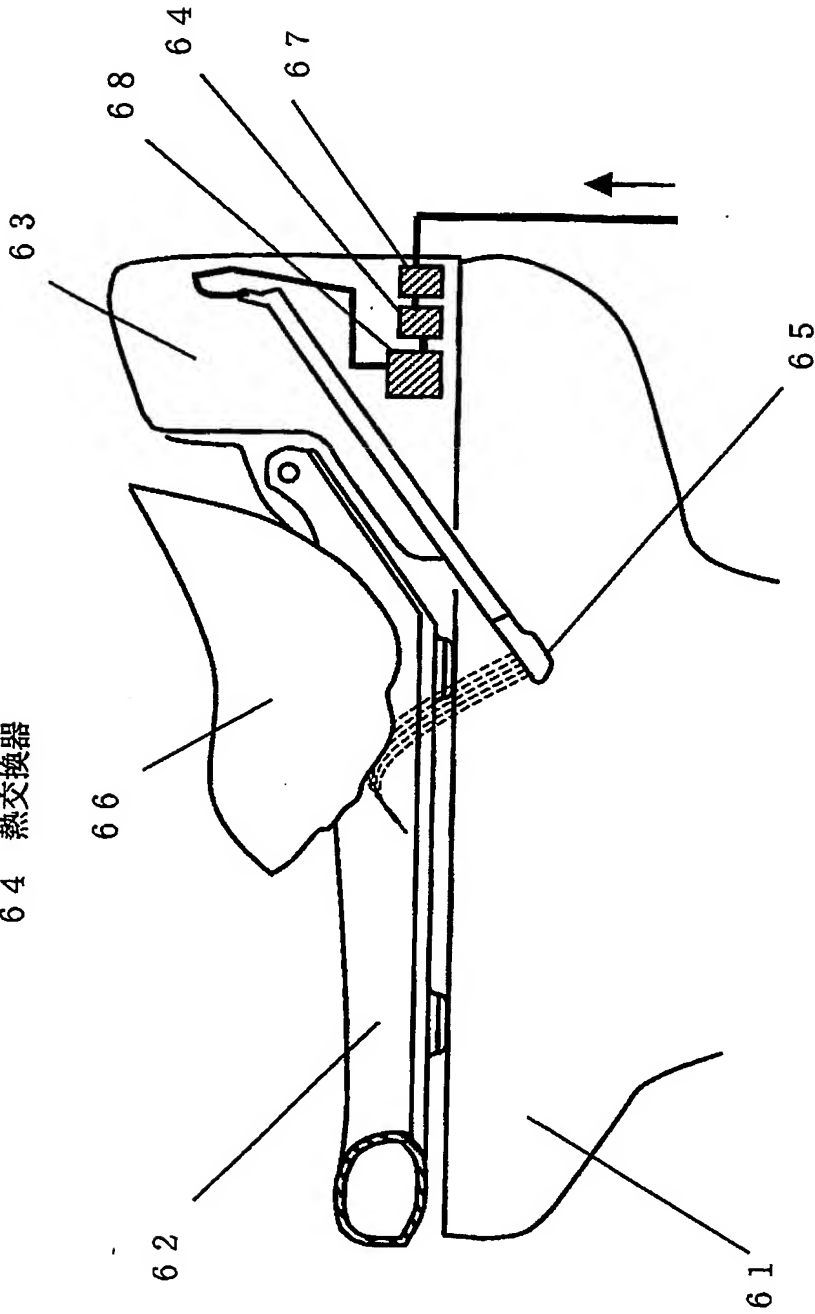
【図 9】

- 7 シーズヒータ (発熱体)
9 ケース
51 螺旋バネ (螺旋状のガイド)

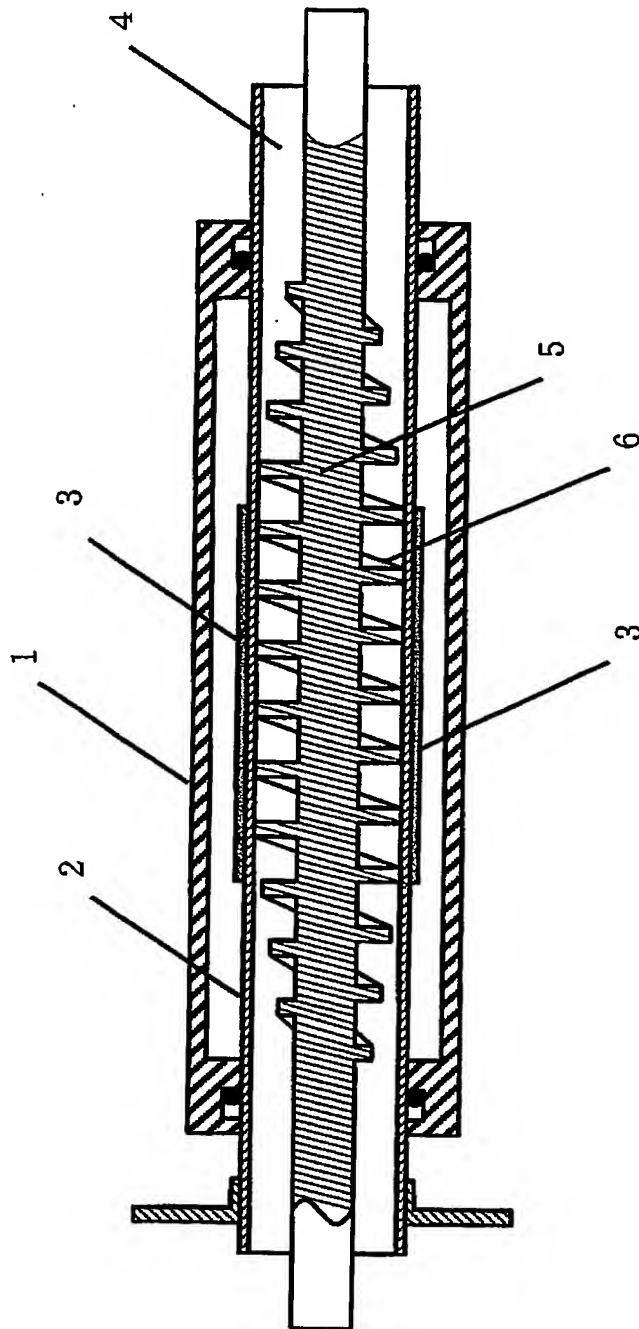


【図10】

63 衛生洗浄装置本体
64 熱交換器



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 熱交換器の寿命を向上するためのものである。

【解決手段】 熱交換器とそれを用いた衛生洗浄装置は、発熱体の外周に設けた流路に流向を旋回方向に変換する螺旋状のガイドを設置することで、流路を流れる水の流速を早くし、発熱体の表面温度を低下させ、発熱体などに堆積するスケールなどの付着量を低減することができ、小型で高効率を実現しかつ長寿命とすることができる。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 4 - 0 3 4 6 6 6

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 5 8 2 1]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 2 8 日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地

氏 名 松下電器産業株式会社

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/018389

International filing date: 09 December 2004 (09.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-034666
Filing date: 12 February 2004 (12.02.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 10 February 2005 (10.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record.

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☒ **BLACK BORDERS**

☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

☐ **FADED TEXT OR DRAWING**

☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**

☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**

☒ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

☒ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.